

カイメン動物



最も原始的な動物カイメン。内部は中空で大きな穴が開いている(水槽番号228-1)

水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

11

白山 義久

従来、生物は原核生物(細菌)、原生生物、植物、動物、菌の大きく5つの界に区分されると言われてきた。動物は、体

スポンジに使われた生物

が多数の細胞からなっていて運動性があり、他の生物を食べることで生きるために必要なエネルギーを得ることを共通の特徴として

っきりしている。1人、2人と数えられるし、動いたということも分かる。カイメン動物はというと、多数の細胞からなっているけれど、はっきりとした個体の輪郭がない。このため、1匹、2匹と数えられない。また、そもそも動くことがない。

は、水中では有力な生き方で、カイメン以外にもたくさん海の生物が採用している。水族館でじっとカイメンの穴を見ていると、水と一緒に小さな粒子が流れ込んでいくのが分かる。

筒の壁に

たくさん入っている。細胞

が集まっているだけのカイメンは、これだけでは形を保てない。

カイメンは英語でSponge(スポンジ)という。石油製品が広まる前は、お風呂で体を洗うのにカイメンを使っていたのだ。(京都大学瀬戸臨海実験所長)

している。この動物界の中で最も原始的と考えられているのが、カイメン動物である。

さらに、口、胃、腸などの消化管、筋肉、神経、血管、心臓などの器官も未発達。動物らしさは、餌を捕ることくらいだ。

動かないカイメンは、どうやって餌を捕るのだろうか。この動物は内部が中空の筒状になっている

この定義からすると、カイメンはとも動物と思えない。われわれ人間は、上皮という組織が全体を覆って個性がは

カイメンのもう一つの特徴は骨である。ガラス質、石灰質、タンパク質などからできた小さな骨(骨片)が、体をつくる